

シリーズ2、庭木に利用する樹種の特徴と管理⑫

—アジサイ—

日本樹木医会富山県支部
樹木医 西村 正史

公園等では集団で、家庭では庭に単木あるいは数本で、それぞれアジサイ(図1)が植栽されています。梅雨に入ると一斉に咲き誇り、それは見事です。今は梅雨の最中でもありますので、アジサイを紹介します。

1. 特徴

アジサイは、広い意味ではアジサイ属植物の一部の仲間の総称ですが、狭い意味では品種の一つの名前です。後者のアジサイは、日本に自生するガクアジサイ(図2)から改良されたものです。日本のアジサイがヨーロッパに渡って品種改良されたものは、セイヨウアジサイと呼ばれています。

6~7月の梅雨の頃に開花し、白、青、紫または赤色の萼(がく)が大きく発達した装飾花をもっています。ガクアジサイではこれが本来の花の周辺部を縁取るように並んでいます(図2)。また装飾花のみとなったアジサイの園芸品種もあります(図3)。

花(正確には萼)の色は、アントシアニンのほか、その発色に影響する補助色素や、土壌のpH、アルミニウムイオン量、さらには開花からの日数によって様々に変化します。一般に「土壌が酸性ならば青、アルカリ性ならば赤」と言われていますが、土壌のpHは花色を決定する要因の一つに過ぎないようです。

なお、日本に生息する野生種は、ガクアジサイ、ヤマアジサイ、エゾアジサイ、タマアジサイなどがあります。エゾアジサイを除けば、富山県中央植物園で観賞することができます。

2. 維持管理

日当たりから半日陰の場所でよく育ちます。水を好む植物で、乾燥すると生育がてきめんに悪くなります。地植えで適湿地に植えている場合には、真夏に日照りが続く場合を除き、ほぼ自然の雨だけで十分生長します。日当たりがよく乾きやすい場所では、株のまわりに敷きワラなどマルチングを行ってください。じめじめした水はけの悪い場所は適していません。

放置しておくと、年々大きくなって花の咲く位置も高くなりますので、株の大きさを一定に維

持するために、花が終わった直後に剪定を行います。花芽は7~8月に形成されますので、それ以降に枝を落とすと花芽まで剪定してしまうので注意してください。



図1 アジサイ (2010年6月26日撮影)



図2 ガクアジサイ (2012年6月28日撮影)



図3 装飾花のみの園芸品種 (2010年6月26日撮影)

※写真は富山県中央植物園で撮影したものです。